

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1296900036		
法人名	有限会社 長寿松		
事業所名	グループホーム 時の村15号館		
所在地	千葉県長生郡白子町北高根3906-4		
自己評価作成日	令和7年11月27日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、住み慣れた地域で安全に安心した生活を送っていけるよう、支援を提供しています。花や海を見にドライブ、馴染みのある神社へお参りに行ったりしている。季節を感じてもらえるよう、時季の食材を取り入れ食べる楽しみが持てるよう工夫しています。一人ひとりの持っている力を活かしお手伝いをして貰っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiakensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	令和8年12月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の多くが白子町出身であり、地元への愛着が強いことから、事業所は地域に根ざした記憶やつながりを大切にする支援を重視している。特に白子神社は「白子様」として親しまれ、桜見物や車いすでの参拝も可能な特別な場所であり、利用者に地域との結びつきを実感させる機会となっている。こうした環境を活かし、住み慣れた地域で安心して生活を続けられるよう、馴染みの場や思い出を尊重した関わりを心がけている点は本事業所の優れた取り組みといえよう。さらに人手不足の中で外国人職員が補助的役割を果たし、4年近く勤務する職員も施設状況を把握して支援に貢献している。職員間のコミュニケーションでは、翻訳機の活用がおおいに効果を上げている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「個人を尊重し、安全で安心できる、楽しく美しい生活の場を、地域と連携の中で、和の心を持って確立する。」という理念に基づき、職員同志常に意識し合い利用者1人1人を把握し、その方に合った介護に当たっている。職員も楽しく仕事をするという意識を持って仕事に取り組んでいる。	理念を玄関に掲示し職員が常に確認できるようにしている。外国人職員が多いことから、日々の会話を通じ理念の意味や具体的な行動を繰り返し説明し理解の共有を図っている。利用者を人生の先輩として尊重し、その人ができることを大切にしながら不足部分を補う介護を実践し、職員自らも仲間として楽しみ笑顔で支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し日常の回覧板の回付やゴミ集積所の掃除、草刈りの参加を行っている。又、散歩の際は、挨拶をしてコミュニケーションを取る様になっている。	自治会に加入し、農道や排水路、遊休地のコスモス畑、八幡様周辺の草刈りに参加することで地域住民と交流を深めている。活動時には近隣住民からグループホームへの質問を受け説明する場面もあり、関係づくりが進んでいる。散歩時の住民との接点は多くないが、地域との関わりを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に貢献できる様、取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回、町役場職員、地域包括支援センター職員、自治会、ご家族等が出席している。事業所が運営状況を報告し、出席者の意見を聞き、サービス向上に活かしている。	年6回の運営推進会議が開催され、参加メンバーは主に白子町健康福祉課、地域包括支援センター、自治会長、職員等である。最近の会議では、利用者の作品(絵画・ちぎり絵)を公民館等で展示できないかが議論され、白子の文化祭での展示可能性も検討されたが実現には至っていない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生保者が7名になり、生保担当との連絡が増えている。社協の金銭管理者も毎月訪問され面談している。	生活保護受給者が7名おり、健康福祉センターが窓口となって相談支援を行っている。キーパーソン不在の利用者が多く、社会福祉協議会が金銭管理を担ってもらっているため、そちらに出向くことも多い。また、健康福祉センターと社会福祉協議会の担当者が施設を訪問し、生活保護利用者の近況確認を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入口に身体拘束排除の基本理念や基本方針を掲げ、年2回研修を実施し議事録作成し全職員に周知徹底している。	身体拘束に関する研修を6月に実施し、年度内にもう1回の実施を予定している。教材は本社資料を基にしつつ必要に応じてインターネット情報も活用している。安全面からスピーチロックに陥りやすい場面、例えば徘徊し始めている利用者に対して「座っていて」と制止するのではなく、一緒に歩いて落ち着きを促す対応を徹底し職員間で共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	会議で資料を活用し職員同士で共有し、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の機会があれば、出席させたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用申し込み時に契約書等の説明を行い、理解していただいた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今のところ面会制限はないので、対面にて面会できている。また、毎月の請求書を送る際に写真や居室担当より手紙を入れ、家族・スタッフ間の交流ができています。ご家族からの電話でご様子を伝えています。	家族から歩行器送付の要望があったが、適合性が不明なため様子を見ることにし保留としている。利用者アンケートでは外出機会を望む声があり、目標達成計画や訪問時のヒアリングでは外国人職員の増加に伴う運転者の減少や車いす対応車の確保困難が背景となり、庭に出るなど外気浴による気分転換を進めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ケア会議を月一回実施し、職員の意見や提案を運営に反映している。主に利用者様の事や、研修の実施をしサービスへ繋げている。普段の会話でも意見を聞いている。	月1回の会議で利用者の変化や困りごとを共有し対応を検討している。朝の機嫌が不安定な利用者には無理にトイレ誘導や歯磨きを促さず焦らせない対応を周知している。外国人職員には時間優先ではなく生活リズムに合わせた支援を助言し、些細なことも申し送りで意見交換できる体制を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境の整備に努めている。給与水準については、現場で査定することもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部から研修案内があれば、積極的に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列施設の管理者会議が定期的であり、他の施設の様子がうかがえ取り入れられている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に管理者、計画作成担当者が面接を行い本人と話しあう時間を設け本人の考え、不安等聞き安心して頂ける様努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の希望に添ったサービス提供が出来る様、信頼作りに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方の状況を把握し、要望に沿ったサービスを提供すると共に出来る事は行って頂いている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に来れることは手伝って頂き、生活を支援している。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と密に連絡を取り合い、利用者の状態が向上する様話し合い支援している。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも親戚の方やお孫さん知人の面会もある。家族や知人と外出される方もいる。また地元の神社へ初詣や海までドライブをしている。	宗教活動の友人が迎えに来て集会に参加する利用者もおり、オンライン会議に参加する際は事務室を使用できるよう配慮している。家族による外食への連れ出しや孫の面会も多く見られる。居室の窓から田んぼが望め、季節の移ろいが地域の営みを思い起こさせる環境となっている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性を見ながら、席次に配慮している。又、孤立させない様、声掛けをし、配慮している。誕生日会等1.2F合同で行う事もあり、話をする機会をふやしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応している。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に本人・家族から意向や身体状況を確認している。入居後、ケアマネ、職員は、日々の会話や本人の表情、態度などから希望等を把握し、徐々に修正しながらケアプランを確定させ、3カ月に一度見直している。	入所時においては、本人や家族から生活歴等を丁寧にアセスメントし、本人の思いや意向の把握に努めている。支援開始後も日常の支援の中でモニタリングを行い、毎月ケア会議を開催し職員間で意見を出し合うとともに、必要に応じてケアプランを見直し、利用者の意向が反映された支援を展開している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に面接を行い本人、家族から話を聞くようにしている。また、これまでにサービスを利用している場合は、担当ケアマネ、相談員からも情報も得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の状況を見定めて、対応に当たっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者や家族の要望により、介護計画に近づく様作成している。また状態が維持できるようお散歩等、利用者様と一緒に歩き下肢筋力低下を防ぐような取り組みを行っている。車椅子の方が増えたので足踏みを多くしている。	利用者と家族の意向を反映したケアプランに基づき、多国籍の職員全体で「申し送りノート」や翻訳アプリ等を活用して状況を把握し、ケア会議等で意見交換を行い支援展開している。例えば、利用者の姿勢の偏りにはクッションを用いた調整とモニタリングを繰り返し、利用者の快適度を追求したケアを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録・申し送りノートを設けて、職員間で情報を共有し、介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況に合わせて買い物や病院受診等行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ゴミゼロ等に利用者と参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所との協力医療機関だけでなく、利用者の必要とする医療機関への受診も対応もし、歯科については定期往診で口腔ケアの指導をお願いしている。現在は施設入所時より協力医の訪問診療を全利用者受けている。診療日が1階2階別日の為、毎週訪問されている。また、本社の看護師が月2回訪問ある。	施設利用者は階ごとに分かれ、隔週で主治医の定期診察を受けている。医師が毎週来訪していることで体調不良時も柔軟に対応している。健康情報はFAXで医師に事前報告し、診察内容は申し送りノートに記録され情報が職員間で共有されている。外来受診が必要な場合は家族や職員が対応し、主治医との医療連携も図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には、24時間電話出来、急変等あった場合、相談等行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師・看護師とコミュニケーションを取って、入退院に備えている。入院中は、可能な限り職員が面会し、関わりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来る事、出来ない事は予め説明しており入所時に重度化した場合をご家族に説明し、「緊急時及び終末期における確認書」を取り交わしている。局面になると家族の意向も変わることが多いので、連絡・話し合いをしている。重度化した時は、協力医の院長が直接往診に来てくれ、看護師はコールすれば来訪が可能である。家族の要望により、看取りまで行う場合もある。	緊急時や医師の診断により終末期入る際、再度家族に延命等の意向を確認する。家族からの希望で往診日に医師と直接相談することや電話での説明も可能である。必要時に看取り会議を開催し、家族や医療機関、職員で方針や対応について共有している。また職員間でグリーフケアについて確認し合い、メンタルサポートも実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	判断が難しい時には、看護師に常時連絡が取れる体制になっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施している。日中、夜間と実施している。6月に消防立会いの元で総合訓練の実施。非常食の場所、使い方、発電機の使い方を研修している。	年に2回、日中と夜間での避難訓練を実施している。日中に行った訓練では消防署の職員に来訪してもらい、発電機の稼働方法や設置場所等の指導を受ける機会があった。認知症高齢者の精神的な安定を考慮し、施設内避難も考えられるため、災害時の電力や備蓄品が確保され、定期的に点検が実施されている。	夜間は職員が各階に一人体制となるため、災害直後の避難誘導等の対応が課題となっている。職員の役割の明確化を図るとともに、運営推進会議や自治会との交流を深め、地域資源の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーの確保は利用者の尊厳を守る為の基本であることを理解し、場所をかえて話をするように心がけし、本人の尊厳を守る事を重視している。また、言葉遣いやあからさまな介護に気を配り、職員には折に触れ注意をうながしている。言葉の使い方には特に気をつけている。	施設には外国人職員が在籍しており、言葉遣いや「やってあげることが良い事」といった文化的な支援の捉え方に違いが見られる。理念の中の「個人の尊重」について理解を深めるため個別指導を徹底し、職員全体で利用者の尊厳を守り、残存能力を最大限に活かした支援の実施に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を表せる利用者は多くはないが、こちらから提案をしたり、その中から選んでもらうようにしたりしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの持っている力を活かし、洗濯干しやたたみ、掃除、草むしり等、お手伝いをして貰っている。ペースや体調を大切にし、希望に沿って自由に過ごせる様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気候に合った衣類の調整に努めている。又、理美容は訪問美容を受けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の調達には宅配業者を利用して施設内にて調理をしている。片づけ等出来る利用者様にも協力していただいている。時には外部から利用者様が食べたいものを食べたり、季節のあるものを提供して食べる楽しみの機会をつくっている。	家族や職員の自宅で収穫した地元食材を用い、旬の炊き込みご飯や柿をおやつに提供して、旬の味を楽しむことができる。外食が難しい利用者もいるため、デリバリーを活用し、食べたいものを食べる機会を作っている。また、誕生日や夏祭りにはちらし寿司や屋台風の焼きそば・たこ焼きを提供し、雰囲気を楽しめる工夫を施している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスについては、宅配業者の献立を基にしている。米の他に麺類や嫌いな物への個別対応で、食べやすい形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に1回、歯科医師の訪問診療を受けている。一人でケアできる利用者は、時間がかかっても声かけと見守りで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄記録を職員間で共有し、日中は声掛けによるトイレ誘導を徹底している。夜間はオムツ、リハパン、パッド等を使い分けて個々に対応している。オムツ使用者・バルーン留置の方は毎日陰部洗浄を実施し尿路感染等を予防するよう支援をしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録し、職員間で共有するとともに、利用者のニーズに応じた個別支援を展開している。さらに、一人でトイレに行く利用者の見守りや、ズボンの上げ下ろしなど、利用者が自ら行えることを促し、安全を確保した上で、残存能力の維持に努め、自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から水分補給・運動等を心掛けている。また医師、看護師と相談しながら下剤等の見直しを行い対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ホームとして、入浴時間帯はある程度の決まりはあるが、週2回の入浴を支援している。同性介助の希望や、シャワー浴、足浴にも対応している。人により風呂と言わず脱衣所まで誘導する事もある。一緒に歌ったり、話が弾んだり楽しんでいる。	可能な範囲で利用者の要望に添って対応し、声掛けを工夫して入浴を促し清潔保持にも気を配っている。入浴用車椅子を設置しており、身体的な状態に応じて安全に配慮した支援が展開されている。浴槽に入浴剤を入れてリラックスできる雰囲気を作り、会話や歌を楽しむ時間を設けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調の変化に合わせて、休んで頂いたり、自室での休息や臥床を促している。食事、お茶の時間になったら声を掛けるなど不安を和らげ、安心感を持って頂ける様配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を参考にしている。飲み込み確認を行い、服薬時にはスタッフ二人にて確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみや新聞たたみを手伝って頂いている。塗り絵や絵を書いたり楽しんでいる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に職員付き添いで散歩をしている。定期的ドライブ等を企画しており、戸外に出かける楽しみをもっといただいている。他のGHと合同で出かけたり、レクリエーションを行っている。	法人のデイサービスから大型車を借用し、希望される利用者と地域の芸能発表会の観賞に出かけたり、「白子桜」等、季節ごとに海や畑の景色を見にドライブに出かけている。天気の良い日は、「白子様」と地元利用者に親しまれている白子神社や施設付近を散策し、日常的にも日光浴や外出を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、対象となる利用者は少ないが、預貯金の引き出し等、本人自らが出来る人は支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取り等支援している。携帯電話を使用する人は、自己管理としている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に整理整頓に心がけ落ち着いて過ごせるようしている。リビングに毎月季節を感じられる様、飾りつけしている。	利用者の状態に応じて、窓ふきやモップ掛け等の掃除や洗濯ものたたみ等の日常作業を分担し、役割を担い生活している。共用スペースは、毎月季節が感じられる装飾が施され、飾りつけに使うモチーフ作りや塗り絵等に利用者も参加している。温度や湿度に気を配り、清潔な印象がある。利用者にとって快適な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士でお互いの部屋に行き、会話を楽しんでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ある程度必要な物は、リストで渡しあとは入居前まで使っていた物を持ち込んでいただいている。使っていた小テーブル、座椅子など持ち込まれる。	入所時には、家族の協力のもと、自宅で使用していた絨毯や座椅子、筆筒、布団等を持ち込むことにより、利用者が落ち着いて生活できる環境を整えている。職員は毎日掃除を行い、清潔な状態を維持し、衣替えや整理整頓の支援も行っている。さらに、転倒予防に努め、安全で快適な居室空間となるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関以外、バリアフリーになっており、手すりも多くあり、床に物を置かない様、安全面の確保をしている。		